

39

## オペラ「アイーダ」(芸術文化ゾーン連携事業)

開催日：平成30年10月28日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



## ●実施状況

このグランドオペラ共同制作は、イタリア・ローマ歌劇場との提携公演として、札幌文化芸術劇場 hitaru、神奈川県民ホール、兵庫県立芸術文化センター、そしてiichikoグランシアタ計4カ所6公演の上演で行われました。大分公演は大千秋楽で、県外からも多くのお客さんが来場してくださり、満員の聴衆で賑わいました。

タイトルロールのアイーダを演じたのは、大分県立芸術短期大学(当時)出身で世界的ソプラノの木下美穂子、指揮には今若手で最も勢いのあるアンドレア・バッティストーニを迎え、現在望みうる最高のキャスト、スタッフでお贈りする舞台となりました。

今回、第2、4幕でのバンダ(オーケストラとは別の場所で演奏するアンサンブル)には清水万敬教授(ホルン)ご指導の下、大分県立芸術文化短期大学の音楽科17名の学生が出演しました。

終演後は、鳴りやまない拍手に別れを惜しむかのように何度もカーテンコールが行われました。

指揮：アンドレア・バッティストーニ

演出：ジュリオ・チャバッティ

原演出：マウリツィオ・ディ・マッティア

装置デザイン：アンドレア・ミーリオ

衣裳デザイン：アンナ・ピアジョッティ

照明デザイン：パトリツィオ・マッジ

合唱指揮：佐藤 宏

演出助手：菊地 裕美子

舞台監督：菅原 多敢弘

出演：木下 美穂子(アイーダ/ソプラノ)、

城 宏憲(ラダメス/テノール)、

サーニャ・アナスタシア(アムネリス/

メゾソプラノ)ほか

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

合唱：二期会合唱団

## ●主催者

公益財団法人(以下、(公財))大分県芸術文化スポーツ振興財団(iichiko総合文化センター) (公財)札幌市芸術文化財団(札幌文化芸術劇場 hitaru) (公財)神奈川県立芸術文化財団(神奈川県民ホール) 兵庫県 兵庫県立芸術文化センター (公財)東京二期会 (公財)札幌交響楽団(公財)東京フィルハーモニー交響楽団

※ローマ歌劇場との提携公演

40

## マンドリンの祭典

開催日：平成30年10月28日(日)

開催場所：J:COM ホルトホール大分



## ●実施状況

本公演では、マンドリンの魅力を存分に味わっていただくために、大分県マンドリン連盟、日本マンドリン連盟九州支部による演奏に加え、メインゲストとして、日本におけるポルトガルギターのパイオニア・湯浅隆と、マンドリン界をリードする吉田剛士によるアコースティックユニット「マリオネット」を招聘しました。

また、関西を拠点として活動している国内トップレベルの「エルマノマンドリンオーケストラ」にも参加いただきました。

大分県マンドリン連盟の国民文化祭への参加は、平成10年の「第13回国民文化祭・おおいた98」において別府ビーコンプラザで開催された「室内楽フェスティバル」以来です。

今回は大分市での開催であることから、「南蛮音楽発祥の地で響くマンドリンの魅力」をテーマに掲げ、演目の最後に「南蛮音楽」をキーワードとしたマリオネットとの共演を実現しようという計画を立てました。

演奏する曲目は、大分日本ポルトガル協会会長の杉村忠彦氏の依頼によりマリオネットが作曲した「南蛮BVNGO」にしました。この曲は、大友宗麟公の時代に花開いた南蛮文化に想いを馳せ、当時の豊後府内のにぎわいや海外との交流などをイメージして作曲されたものです。

平成29年からマリオネットのお二人を講師として研修を行うなど、練習を積み重ね、当日は大分県マンドリン連盟の加盟8団体による126人のメンバーとマリオネットとの共演を実現することができました。

会場には約1,100名もの観客にお越しいただき、マリオネットのお二人による繊細な演奏から、エルマノマンドリンオーケストラ、合同ステージが繰り広げる壮大な演奏まで、マンドリンの多彩な魅力をお届けすることができました。

## ●プログラム

- 1 県外団体ステージ
  - ・日本マンドリン連盟九州支部合同ステージ
  - ・エルマノマンドリンオーケストラ
- 2 ポルトガルギターとマンドリンのアコースティックユニット「マリオネット」ステージ
- 3 大分県マンドリン連盟・マリオネット合同ステージ

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 大分県マンドリン連盟

41

## 四極会芸術文化祭「自遊展」

— おおいた文化の祭典 —

開催日：平成30年10月29日(月)～11月4日(日)

開催場所：アートプラザ



## ●実施状況

四極会は、大分大学経済学部の同窓会です。第4回目を迎えた今回の「自遊展」は、1週間にわたって開催した芸術文化作品の展示会に加えて、書道・華道と詩吟のコラボレーション、商店街での音楽演奏という新しい試みを取り入れました。

出品者・出演者の多くは70歳以上の卒業生で、日頃から趣味として取り組んできた創作活動の成果を披露しました。今回は、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた文化の祭典」事業でもあることから、これまでになく活気のある催しとなりました。

展示会では、44名の卒業生が絵画・写真・短歌・俳句等19のジャンルに120の作品を展示し、定年後を生きる同窓生の人生が集約されたかのような力作が並びました。また、現役学生の写真部からも出品がありました。

音楽会では、男声合唱団「南蛮コール」、鼻笛「スマフル♪ライン」、「マンドリンアンサンブル」の演奏を実施し、通りすがりの買い物客の皆様にも聴いていただきました。

なお、会期中の活動の様子は、インタビューを交えた映像作品として記録し、事後に上映会も実施しました。

事業を通じて、同窓生のほか、多くの県民の皆様と交流することができ、大きな成果を得た大会となりました。

## ●プログラム

- ・10月29日(月)～11月4日(日) 作品展示  
絵画、版画、写真、陶芸、書道、俳句、短歌、川柳、書籍、映像等の作品展示
- ・10月31日(水) 音楽演奏  
商店街のギャラリー竹町ドームで3つのグループが音楽を演奏
- ・11月3日(土・祝) 詩吟と書道・華道のコラボレーション  
吟詠に合わせて書を書き、またお花を生けるパフォーマンスを実施

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 一般財団法人 四極会 大分支部

42

# ミュージカル「マイ・フェア・レディ」

(芸術文化ゾーン連携事業)

開催日：平成30年10月31日(水)・11月1日(木)

開催場所：iichiko総合文化センター



## ●実施状況

時代を超えて愛される不朽の名作「マイ・フェア・レディ」が、日本初演55周年の今年、朝夏まなとと神田沙也加という新しいプリンセスを迎え、全国大千穠楽として大分で上演されました。チケットは、公演2ヶ月前に両日とも完売となりました。本公演は、クラシカルな英国の香りと華やかさはそのままに、個性豊かな登場人物たちの生き生きとした情感がより際立つ舞台として、大好評を博しました。また、11月1日(木)の大千穠楽公演(主演：朝夏まなと)前には、本物のセットと生オーケストラで同作のナンバーを歌って踊る特別体験ワークショップの発表が行われました。募集開始からわずか40分で定員に達したこの人気企画には、小学生から70歳までの110名が参加し、7月から本公演の振付、歌唱スタッフの指導を受け、この日の為に練習を重ねてきました。ステージでは、参加者がお揃いのTシャツに身を包み、「教会へは遅れずに」を歌いながら、息の合った歌とダンスを披露しました。全員のパフォーマンスが会場を熱く包み込み、観客ほか、客席に駆け付けた本公演のキャスト陣からも盛大な拍手が送られました。本公演及びワークショップ発表は、ともに大成功を収めました。

## ●プログラム

- 本公演内容：ミュージカル「マイ・フェア・レディ」
- 10月31日(水) 18：30～21：45  
出演：神田 沙也加、別所 哲也 他
- 11月1日(木) 18：30～21：45  
出演：朝夏 まなと、寺脇 康文 他
- 脚本・歌詞：アラン・ジェイ・ラーナー
- 音楽：フレデリック・ロウ
- 翻訳・訳詞・演出：G2/振付：前田 清実
- 音楽監督：八幡 茂/美術：古川 雅之
- 照明：高見 和義/音響：山本 浩一
- 衣裳：十川 ヒロコ/ヘアメイク：宮内 宏明
- 歌唱指導：堂ノ脇 恭子/指揮：田邊 賀一
- 演出助手：西 祐子
- 舞台監督：荒 智司、松井 啓悟
- プロデューサー：齋藤 安彦、篠崎 勇己
- ワークショップ発表内容：「教会へは遅れずに」  
(ミュージカル「マイ・フェア・レディ」より)
- 11月1日(木) 17：30～18：00
- 出演：公募による県民110名
- 振付：前田 清実/歌唱指導：堂ノ脇 恭子
- 指揮：田邊 賀一

## ●主催者

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

出会うの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

43

## 障がい者アートフォーラム

開催日：平成30年11月1日(木)

開催場所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

## ●実施状況

各都道府県が実施する「障害者芸術・文化祭のサテライト開催事業」と連携・連動する「全国連携事業」の一環として、全国各地の先進事例の紹介等を通じて、障がい者のアート活動に対する支援のあり方を考えるための全国フォーラムを開催しました。

長年障がい者のアート活動を支援してきた東ちづる氏の基調講演では、誰も排除しない「なぜこぜの社会」を目指し「Get in touch」を設立した際の経緯や、「障がい」を「特性」と考え排除しない社会のあり方について講演いただきました。

そのほか、全国で活躍する障がい者アートの支援者が自らの取組を発表するパネルディスカッションや分科会を開催し、参加者との意見交換が行われました。

当日は、厚生労働省が実施する「障害者芸術文化活動普及支援事業」の実施都道府県・団体をはじめ全国各地から多数の参加をいただき、来場者からは、「全国の先進的で刺激的な取組に感動した」、「日々の障がい者に対する関わり方の勉強になった」等の感想をいただきました。

## ●プログラム

1 全体会 13:00~15:15

- (1) 基調講演「Let'sなぜこぜアート」  
女優・タレント・Get in touch 理事長 東 ちづる氏
- (2) 大分県の取組～「障がい者の芸術活動支援に関する提言」を踏まえた大分県の現状と今後について～  
大分大学教育学部 教授 田中 修二氏
- (3) パネルディスカッション～障がい者アート活動への支援について～  
一般財団法人たんぼの家 理事長 播磨 靖夫氏

ビッグ・アイ共働機構 アーツエグゼクティブプロデューサー 鈴木 京子氏  
社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房 施設長 山下 完和氏  
NPO法人まる 代表理事 樋口 龍二氏

2 分科会 15:30~17:00

- (1) 障がい者の芸術鑑賞支援、発表の場づくり  
ビッグ・アイ共働機構 アーツエグゼクティブプロデューサー 鈴木 京子氏  
一般社団法人 ArtInterMix 代表 中津川 浩章氏
- (2) 障がい者アートを活用した商品化  
NPO法人まる 代表理事 樋口 龍二氏  
NPO法人TSUNAGU FAMILY 代表理事、株式会社PAPA'S & MAMA'S 代表取締役社長 城島 薫氏  
社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房 施設長 山下 完和氏
- (3) 障がい者の芸術活動支援の効果について（障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドライン作成事業中間報告）  
NPO法人日本ファンドレイジング協会 プログラムディレクター 清水 潤子氏  
厚生労働省障害保健福祉部 障害者芸術文化活動支援専門官 大塚 千枝氏  
一般財団法人たんぼの家 常務理事 岡部 太郎氏  
社会福祉法人グロー アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター アドバイザー 木元 聖奈氏  
社会福祉法人みんなできてる 東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター センター長 坂野 健一郎氏

## ●主催者

厚生労働省 文化庁 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

## ときめき作品展

開催日：平成30年11月1日(木)～5日(月)

開催場所：iichiko総合文化センター



## ●実施状況

平成8年に始まった「ときめき作品展」は、大分県内の障がい者・児の芸術・文化に関する自主的な取組を支援し、その成果を発表・展示する機会を設け、障がいのある方々の芸術文化活動に対する意欲の向上と、より自主的で積極的な社会参加を促すことを目的に開催されています。

今回の作品展では、大分県内の障がい者福祉施設、特別支援学校、個人から応募のあった6分野（絵画、工芸、写真、書、陶芸、合作）計345点を展示し、各分野毎に感動した作品を来場者に投票してもらい、最も票数が多い作品を「ときめき大賞」として表彰しました。

また、今回は、障がいのある方々の創作活動やスポーツに取り組む様子を多くの方々に知っていただくため、「障がい者芸術・スポーツ写真展」を同時開催しました。

来場者からは、「どの作品もすばらしく、1つに絞って投票することが難しい」、「作品から元気をもらえた」等の感想をいただき、作品鑑賞を通じて、障がいのある方とない方の交流や相互理解を一層進めることができました。

## ●ときめき大賞受賞者

- ・絵画の部 吉田 八郎 「広瀬アリス」
- ・工芸の部 宮崎 等 「復興の梅灯」
- ・写真の部 阿部 睦美  
「大好きだった おばあちゃん」
- ・書の部 横山 スミ子 「花」
- ・陶芸の部 安部 カヨ子 「粉引刷毛目湯呑」
- ・合作の部 淵野病院精神科デイケアアクトデイケア合作  
「富嶽三十六景 神奈川冲浪裏」

## ●主催者

大分県障害者社会参加推進協議会 厚生労働省 文化庁 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

45

# 国宝、日本の美をめぐる —東京国立博物館名品展 (芸術文化ゾーン連携事業)

開催日：平成30年11月2日(金)～25日(日)

開催場所：大分県立美術館



出会いの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

## ●実施状況

本展覧会は、東京国立博物館の収藏品貸与促進事業として採択され、同館の特別協力を得て開催されました。展示作品は、縄文時代から江戸時代末期までを中心に日本美術の名品ばかりで構成され、日本美術に通底する特質や美意識をふり返ることができる内容となりました。

先史美術を代表する力強い意匠の縄文土器から、平安末期の国宝絵巻「地獄草紙」、室町期の周文や雪舟らの水墨画の傑作、そして江戸期の奇想派を代表する伊藤若冲や、世界的にも評価の高い写楽や北斎、歌麿らの浮世絵、また精神性を重んじた谷文晁や田能村竹田らの南画、さらには志野・織部・唐津といった近世諸窯の名陶まで、あらゆる時代、ジャンルの多彩な美をご覧いただきました。

展示された44件の作品には、国宝3件、重要文化財13件という多数の国指定文化財が含まれ、東京国立博物館所蔵品による地方展としては、これまでに類を見ないほどの充実した内容の展覧会となりました。これら珠玉の作品を通じて、これまで営々と築かれてきたわが国の歴史と文化を回顧するだけでなく、これからの文化継承とさらなる発展についても思いを新たにする契機となりました。総入場者数は、約3週間の会期にもかかわらず1万8千人を超え、非常にたくさんの来場者に日本美術を鑑賞いただきました。

開幕初日には、東京国立博物館学芸研究部長の田沢裕賀氏に展示内容について詳しくご講演をいただき、作品についてより深い鑑賞が促されました。また、担当学芸員によるギャラリートーク（展示解説）を毎週末実施し、毎回多くの参加者に日本美術の魅力にふれる機会を提供することができました。

## ●その他 関連プログラム

11月2日(金) 13:30～15:00

トークイベント「日本の美—その歴史をめぐる—」

講師:田沢 裕賀(東京国立博物館学芸研究部部長)

会場:大分県立美術館2階研修室

参加人数:76人

11月3日(土・祝)、10日(土)、17日(土)、

23日(金・祝)、24日(土)

金曜日は16:00～17:00

土曜日は14:00～15:00

ギャラリートーク

案内:担当学芸員

場所:大分県立美術館3階コレクション展示室

参加人数:毎回約40人

## ●主催者

大分県芸術文化スポーツ振興財団特別企画実行委員会

46

## 大分市中央通り歩行者天国

開催日：平成30年11月3日(土・祝)

開催場所：市道中央通り線



## ●実施状況

大分市では年3回、商業施設が立ち並ぶ大分市道中央通り線を歩行者天国にして、中心市街地の賑わいを創出する「大分市中央通り歩行者天国」を開催しています。

第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会の分野別事業として11月3日に開催された歩行者天国では、大分市が「出会いの場」として位置づけられたことを受け、多くの出会いと交流が生まれる場所として、特別イベントを実施しました。

まずはこれまで別会場で開催していた「豊の国YOSAKOIまつり」の規模を拡大し、九州各県から参加した学生チームの一部に、歩行者天国でもパフォーマンスを披露していただきました。

若者たちの躍動感あふれる演舞を見ていただいた後は、同じく今回の文化祭の分野別事業である「大分市やま揃え」の参加団体が登場し、心弾む祭り囃子で会場をさらに盛り上げました。

その他、名曲「ヒーロー」でおなじみの麻倉未稀氏をはじめ様々なアーティストによる迫力ある音楽ステージ、恒例となった市民等によるフリーパフォーマンスや中心部商店街からの出店など、大分市の多彩な魅力に触れていただく企画も多数

開催しました。

歩行者天国で、別イベントの出演者にこれだけ大規模に参加いただくことは初の試みでしたが、晴天にも恵まれ、会場には過去最大となる約32,000人が来場し、中心市街地の賑わい創出につながる一日となりました。

## ●プログラム

- ・市民等によるフリーパフォーマンス
- ・音楽ステージ
- ・おおいたなかよしマーケット
- ・商店街飲食ブース
- ・まちなかタイムバーゲン
- ・「豊の国YOSAKOIまつり」
- ・「大分市やま揃え～後世につなぐ文化の架け橋～」
- ・「ラグビーワールドカップ2019™」のPR
- ・JR大分駅ぶんぶん号運行 など

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 大分市中央通り歩行者天国推進委員会



47

## 大分市やま揃え～後世につなぐ文化の架け橋～

開催日：平成30年11月3日(土・祝)

開催場所：市道中央通り線、大分城址公園



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

## ●実施状況

大分市では、お祭りの際に豪華な彫刻や鮮やかな彩色を施した山車（やま）が町内を巡行する文化が地域に根付いています。今回、この山車文化を広く皆様に紹介し、保存・伝承に寄与することを目的として、「大分市やま揃え～後世につなぐ文化の架け橋～」と題したイベントを実施しました。

山車の参加台数は31台で、そのうち20台が前日の夜に各地区を出発し、待機場所である大分城址公園まで曳いて移動しました。移動途中は、普段なかなか目にすることがない地区外の山車が通るのを心待ちにしていた多くの方々が沿道に並び、大変喜ばれました。

当日の13時から16時までは「大分市中央通り歩行者天国」とコラボレーションし、中央通りにて山車の展示、紹介、運行を行いました。準備していたパンフレットがあっという間になくなるほど大盛況でした。

16時から20時までは再び大分城址公園に移動し、府内城仮想天守イルミネーションと電飾の灯された山車とのコラボレーション展示を行いました。

大分市長の発声により大友鉄砲隊が発砲し、それを合図として、府内城の仮想天守と集結した山

車とが一齐に点灯した瞬間には、場内から大きな歓声が上がり、多くの観覧者がスマートフォンなどを片手に写真を撮っていました。

山車の展示とあわせステージ上で披露された大分太鼓、小池原御神楽、落語、大友宗麟鉄砲隊演武なども多くの方に観覧いただきました。

来場者の中には、「山車という素晴らしい伝統文化が、ここ大分にある事を知らなかった」という方も多く、興味津々で山車を観覧していました。さらに、「今後またこのようなイベントがあればぜひ来たい」との声も多く掛けていただきました。

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 大分市山車文化振興保存会

48

# わ 輪い 笑いフェスタ!大分市福祉のつどい

開催日：第一部：平成30年11月3日(土・祝) 第二部：平成30年11月6日(火)

開催場所：第一部：大分いこいの道広場 第二部：J:COM ホルトホール大分



## ●実施状況

「輪い笑いフェスタ!大分市福祉のつどい」は、「ひろげよう!心のバリアフリー」をテーマに、障がいのある人となない人とのふれあいを通して、相互に理解を深め、障がいのある人の自立と社会参加の促進を目的に開催しています。

今回は、本事業を文化祭の障がい者アート事業に位置づけ、例年より内容を拡充して二部構成で開催しました。

第一部「輪い笑いフェスタ!」は、大分いこいの道広場にて開催しました。会場中央のふれあいステージでは、手話サークルによる手話コーラスやエイサー演舞、障がい者施設の楽器演奏が行われました。さらに特別ゲストとして、長崎県雲仙市に拠点を置く知的障がい者のプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」を招き、勇壮なステージを披露していただきました。

会場には障がい者施設や団体による20の店舗が立ち並び、パンやクッキー、焼き鳥の軽食や木工品、革製品の手作り品などを販売しました。晴天にも恵まれ、延べ2,000人もの来場者で終日賑わいを見せていました。

第二部では、J:COM ホルトホール大分にて、視覚に障がいのある和波孝禧氏によるヴァイオリン・

リサイタルを開催しました。約500人の来場者が、和波氏の繰り出すヴァイオリンの音色とピアノのハーモニーに魅せられていました。

障がいのある方やその関係団体がステージで演奏を披露したり、店舗で販売に携わることで、障がいのある人となない人の相互理解が進んだと思われます。特に、今回お招きした「瑞宝太鼓」と和波孝禧氏の素晴らしい演奏とメッセージは、来場された方々に大いに伝わるものがあったと考えます。

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 輪い笑いフェスタ!大分市福祉のつどい実行委員会

49

## オーケストラと合唱の祭典(芸術文化ゾーン事業)

開催日：平成30年11月4日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



出会いの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

## ●実施状況

近年大分では、地震・水害・土砂災害など天災が発生しており、また、北海道の地震や中国・四国の豪雨など全国でも災害が相次いでいます。音楽を通じて被災地の皆さんを勇気づけたいという思いから、『届け！大分の大地から全国へ 響け！復活のハーモニー』をテーマに、全国から音楽を愛する人が集い、心一つにして楽曲を演奏する「オーケストラと合唱の祭典」を約1,250人の聴衆のもと開催しました。

第一部の青少年の部では、iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラやアルカスSASEBOジュニアオーケストラ（長崎県）を中心とした128名、合唱には県内の中高生193名が出演しました。指揮を清水醍輝氏が務め、はじめに作詞大木惇夫、作曲佐藤眞のcantata『土の歌』より「大地讃頌」を力強く歌うとともに、その後オーケストラがシベリウスの交響詩「フィンランディア」、モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、レスピーギの交響詩「ローマの松」を演奏しました。

第二部の一般の部では、指揮を森口真司氏が務め、ソプラノ林満理子氏、アルト愛甲久美氏が華麗で伸びやかな歌声を響かせるとともに、全国各地から集結した43団体169名のオーケストラと、県内団体を中心に編成された179名の合唱団がマーラーの交響曲第2番「復活」を迫力ある演奏で披露しました。

オーケストラと合唱が一体となった大規模コンサートは、これまで県内で企画されることがほとんどなく、県民にとっても、なかなか聴くことができない大曲に

接することができ、圧倒的なステージに感動したという声が多く聞かれました。

さらには、親子での出演など、小学生から高齢者まで幅広い年代層が参加した大会であり、音楽を通じて世代間交流も行われました。また、異なる地域で同じ音楽をしている人が集まり交流することにより、演奏・合唱技術の向上とともに、新しい発見や次につながる出会いが生まれました。出演者や関係者、聴衆が心一つにして、全国に感動を届けることができた素晴らしい大会となりました。

## ●プログラム

- 13：00～ 第一部 青少年の部  
大木 惇夫（作詞）、佐藤 眞（作曲）  
cantata『土の歌』より「大地讃頌」  
J. シベリウス  
交響詩「フィンランディア」  
W. A. モーツァルト  
アイネ・クライネ・ナハトムジーク  
O. レスピーギ 交響詩「ローマの松」
- 14：45～ 第二部 一般の部  
G. マーラー  
交響曲第2番「復活」新校訂Kaplan版

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 公益財団法人日本アマチュアオーケストラ連盟 一般社団法人全日本合唱連盟 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 おおいた2018オーケストラと合唱の祭典実行委員会

50

## ダンス!ダンス!フェスティバル

開催日：平成30年11月4日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



## ●実施状況

一般公募で集まった29名と、障がいのある人を中心としたダンスサークル「レッツダンスでガッツ元気の会」が出演するダンスステージを開催しました。「レッツダンスでガッツ元気の会」では、大分大学教育学部麻生和江教授の指導により、障がいのある人と学生ボランティアと一緒に練習をしており、今回は学生ボランティアが中心となり、ステージの演出と出演者への指導を行いました。

出演者は約1年間練習を重ね、ステージ発表に臨みました。練習当初は難しい振り付けに戸惑うこともありましたが、一緒に練習することでメンバー同士の交流が生まれ、手を取り合って何度もチャレンジし、しっかり踊れるようになりました。

ステージ発表では、総勢170名がダンス14曲を笑顔いっぱい踊り、会場はあたたかい雰囲気になりました。最後の「まげてのぼして」では出演者と観客と一緒に踊ることで、会場全体が一体となり、盛会のうちに幕を閉じました。

出演者からは、「このような舞台に出演できて感動した。本当にありがとう」、観客からは「素晴らしいステージだった」、「とても楽しかった。一生懸命練習して振り付けを覚えていたことに感動した」等の感想をいただきました。

初めて障がい者のダンスイベントを観た方が多く、その魅力を知っていただくことができました。

## ●プログラム

(前半)

1. 世界に一つだけの花
2. かぼす音頭
3. macadamia (学生作品)
4. ChooChooTRAIN
5. 想うがままに (車いすダンス)
6. 香りの体操
7. SOHYO SOHYO SOHYO (学生作品)
8. おどるポンポコリン
9. レッツ!ダンス!
10. Lemon (学生作品)
11. みんなのうた

(後半)

1. ミックスジュース
2. 秋のスポーツ大会だ!  
(6班によるダンスメドレー)
3. まげてのぼして

## ●主催者

厚生労働省 文化庁 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

51

## Oita Global Station

～みんな来ちよくれ!!世界のなんでんかんでん集めました!!～

開催日：平成30年11月4日(日)

開催場所：大分駅府内中央口広場



出会うの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

## ●実施状況

人口当たりの留学生数が全国トップクラスの大分県には、世界中から集まったたくさんの学生たちが暮らしています。「Oita Global Station」は、大分県内に住む世界各国の学生たちが、国際色あふれる「OITA」の魅力を発信する“大”学園祭として、大分駅府内中央口広場で開催されました。

会場には、留学生たちがタコス、チヂミ、ガパオライスなど母国の伝統料理や家庭料理を販売する食ブース20店舗、世界の雑貨を販売する物販ブース5店舗が設置され、各店舗は様々な趣向をこらした飾りつけを行い、民族衣装の着用や、ブース前でダンスを披露するなど、工夫して販売を行っていました。

また、県内8つの高等教育機関（大分工業高等専門学校、大分大学、看護科学大学、芸術文化短期大学、日本文理大学、別府大学・別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学、立命館アジア太平洋大学（APU））のブースも設置され、大学情報や国際交流、留学等の相談を受けていました。

ステージとワークショップブースでは、立命館アジア太平洋大学の地域交流事業「カルチャーワゴンキャンプ」が行われ、最新のK-POPやオセア

ニア地区で広く知られている戦いの舞いであるハカなど、自国の踊りや伝統音楽が披露されたほか、世界の伝統衣装体験や伝統楽器体験など、世界の文化を体験できるプログラムが行われました。

来場者は、世界各国の様々な食や文化の体験とともに、学生とのコミュニケーションを大いに楽しんでいました。

食と物販ブース、ステージ、ワークショップブースの内容はすべて学生が企画・実施しました。学生たちにとって大きなイベントに携わる貴重な経験になるとともに、来場者にも大分の学生たちのエネルギーを感じていただくことができました。

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会

## ふしぎな花倶楽部 — おおいた文化の祭典 —

開催日：平成30年11月5日(月)～11日(日)

開催場所：アートプラザ



## ●実施状況

ふしぎな花倶楽部大分豊後梅押花会は、毎年、大分県下の押し花会員の合同展示会を行っており、24回目の今年は国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた文化の祭典」事業として開催しました。

開催にあたって、インストラクター向けのセミナーを実施し、各インストラクターが新しい技術を勉強するとともに、それを各教室に持ち帰り生徒を指導するなど、11月の文化祭に向けた作品づくりに励みました。大会は、ふしぎな花倶楽部本部の協力を受け、県内外の押し花会員108名のほか、会長や理事、本部講師、全国のコンクール入選作品の計400点の多彩な作品が集まりました。年齢も5～89歳と幅広く、様々な種類の押し花を使い、花が咲き誇る作画をはじめ、季節ごとの身近な風景、動物、自然の花や葉を立体のまま乾燥させたレカンフラワー、押し花を使ったブローチやキーホルダーなどの小物まで、色とりどりの押し花が表現され、会場は魅力ある癒しの空間になりました。

期間中の入場者は約1,600人あり、「押し花でここまで表現できるのかと驚き感動した」などの声をいただきました。また、期間中を通じて体験会

を行い、キーホルダーやはがきの作成に329人が参加しました。

さらに、9・10日の2日間は本部理事筒井雅代先生の押し花トークショー、押し花の手鞠づくりを開催しました。9日は64人が手鞠を作り、10日は35人が額に入れて持ち帰り、「楽しい」「素敵」と口にしながら楽しそうに作業する姿が見られました。

これまで押し花に縁がなかった多くの方々に押し花を知っていただくことができ、今後の普及活動につながる素晴らしい機会となりました。

## ●プログラム

- ・11月5日(月)～11日(日)  
押し花・レカンフラワー展示
- ・11月5日(月)～11日(日)  
押し花体験会
- ・11月9日(金)、10日(土)  
押し花トークショー・実技 押し花手鞠

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 ふしぎな花倶楽部大分豊後梅押花会

53

## 第22回書道芸術院九州支局展

- おおいた文化の祭典 -

開催日：平成30年11月6日(火)～11日(日)

開催場所：大分県立美術館



出会いの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

## ●実施状況

地域の書道文化の向上に努めるとともに、書道芸術院の本部及び九州支局の書道活動を全国に広く紹介するため、第22回書道芸術院九州支局展を開催しました。

漢字・かな・現代詩文書・刻字・前衛書の5部門に、本部役員4名を含めた58名が66点を出品しました。文化祭行事への参加ということで出品者の取組が一段と高まり、力作が多く、また展示方法も工夫したため、来場者からは「鑑賞しやすかった」との声をいただきました。期間中の入場者は1,087人となりました。

また、「学校の役割・書塾の役割～水書き指導への対応～」と題して、元文部科学省教科調査官の長野秀章（竹軒）東京学芸大学名誉教授・全日本書写書道教育研究会理事長に講演いただくとともに、実技講習として、受講生一人ひとりに「えんぴつふで」を使った正しい鉛筆の持ち方などの指導をいただきました。受講生にとっては初めての体験なので新鮮かつ真剣に取り組んでいました。

さらには、会場で長野先生、後藤大峰先生より、作品の講評や制作する上での留意点等の指導を作品にそって受けました。紙・墨・筆・作品構成等

にわたり丁寧な指導をいただき、出品者は今後の制作に対する意欲が一層芽生えました。

## ●プログラム

- ・11月6日(火)～11日(日)  
作品展(1階展示室A東)
- ・11月11日(日)10時～  
講演会(2階研修室)  
講評(1階展示室A東)

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 公益財団法人書道芸術院九州支局

## 大野川合戦まつり

開催日：平成30年11月9日(金)～11日(日)

開催場所：大野川大南大橋周辺河川敷、天面山



## ●実施状況

本事業は、今から432年前の九州制覇を狙う島津軍と、これを迎え撃つ大友・四国連合軍との凄烈な戦い「戸次川の戦い」を史実に基づき再現したまつりで、地域住民が主体となり、地域活性化と文化の継承、青少年の育成を目的に開催しています。

今回は、文化祭の分野別事業ということで、初の試みとして、前夜祭「大野川フォークフェスタ」や、「戸次川の戦い」にゆかりのある市との交流事業「交流市・踊りの競演」などを行いました。

前夜祭「大野川フォークフェスタ」では、大分市観光キャンペーンレディでシンガーソングライターの中島晴香氏をはじめ、大分アマチュアバンドの最高峰「ディアフレンズ」らが出演し、平日の夜にもかかわらず多くの来場者がその音色に酔いしました。

交流事業「交流市・踊りの競演」では、土佐国の戦国大名・長宗我部元親、信親父子にゆかりのある高知市と南国市の「よさこい踊り」や、讃岐国の武将・十河存保にゆかりのある高松市の「阿波踊り」、大友宗麟ゆかりの地である大分市の「鶴崎踊り」と津久見市の「扇子踊り」が披露されました。

例年開催している「鉄砲隊交流演武」と甲冑劇「鼓動の岸边」にも、薩摩日置鉄砲隊、長宗我部鉄砲隊、豊後大友宗麟鉄砲隊に加えて、今回は愛媛県大洲市の大洲藩鉄砲隊が参加し、最高潮の盛り上がりとなりました。

また、障がい者コーナーを設置し、戸次地域の障がい者施設による農作物生産などの活動紹介や竹根工芸の展示、手作りの織物品やパン、クッキーなどの販売を行いました。

今回の文化祭では、地域の若い世代や高齢者、障がいのある方、そして県内外の参加者など多くの方々の交流が図られ、地域活性化に寄与することができました。今後とも、まつりを通じて、さらなる文化の継承と障がい者との交流促進、地域の魅力発信に努めていきます。

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 大野川合戦まつり実行委員会



55

# OITA 歌舞伎 戦国の華

## 「紹運 JO-UN - その貫いたもの -」

開催日：平成30年11月11日(日)

開催場所：J:COM ホルトホール大分



出会の場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

### ●実施状況

本公演では、大分の戦国大名、大友宗麟の家臣団武将であり、愛と義に生きた高橋紹運を主人公に、妻・春花や家臣、領民と織りなすドラマチックな人生と「戦のない世の中」を切望した人びとの心を表現しました。

平成29年度に開催した文化祭プレイベント「BUNGO新風土記 夢」に続き、オール大分県民による創作スタッフと出演者が、地元の歴史的素材を活かしたオリジナル舞台に挑戦しました。

本番に向け、舞台衣裳の制作や歴史講座、演劇・舞踊、殺陣、弓道、身体表現等のワークショップを半年間にわたり開催するとともに、広報宣伝、チケットティングも含めて、創作スタッフ、製作スタッフ、出演俳優、舞台技術チーム、府内戦紙製作チーム等が必要に応じて協議を重ね、舞台制作の過程を全員で共有してきました。

当日は約1,000人もの皆様にお越しいただき、伝統的な音楽と現代的な音楽、洋舞と和舞踊、静と動の入り交じった映像・照明等、多領域のコラボレーションによる華麗なステージが繰り広げられました。

ヒロイン役の小野ひとみ氏が師範の腕前をもつ日本舞踊で観客を魅了し、大分東明高校吹奏楽部

フラッグチームがステージと客席を縦横無尽に駆け巡るなど、出演者も練習の成果を遺憾なく発揮してくれました。また制作チームから声かけして参集した俳優陣は、週末の稽古を通して、ひとつの劇団のようなアンサンブルを築き上げ、舞台のレベルを引き上げてくれました。

歌舞伎や芝居、ミュージカルの要素を取り入れながら、そのいずれにもあてはまらない新しい舞台様式への挑戦は、観客の皆様にも高く評価され、「カブク心意気を舞台創造で!」との作品意図は、概ね実現できたのではないかと思います。

ホール近辺では、当時の大友家の繁栄を偲ばせる古地図の大型拡大図や、甲冑制作教室の作品が展示されるとともに、25店舗18ブースのマルシェも出展し、終日多くの来場者で賑わいました。

本公演を通して、文化祭の基本方針である「県民総参加」「異分野コラボ」「人材育成」を実現するとともに、大分人の手による舞台制作パッケージのシステムづくりの第一歩を踏み出すことができました。

### ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 BUNGO新風土記公演実行委員会

56

# ‘音楽でまちをつなぐ’ コンパルホールゴスペルフェスティバル

開催日：平成30年11月11日(日)

開催場所：コンパルホール



## ●実施状況

大分市コンパルホールでは、毎年ゴスペルフェスティバルを開催するとともに、音楽経験の有無を問わず幅広い世代が参加できるゴスペルの特性を活かし、市民公募による「コンパルホール合唱団」の育成に取り組んでいます。

今回は文化祭事業として、子どもたちによる大分弁ゴスペルの初披露や、ゴスペル指導者の招聘など、内容を拡充して二部構成で実施しました。

第一部では、これまで育成してきた合唱団員75名によるステージや、九州のゴスペルグループによるステージが披露されました。また、文化祭開催を記念して立ち上げた「キッズ・ゴスペル」が、大分弁によるゴスペル曲「You are good ～いいやん大分!」を初披露しました。大分市在住の藤波恵氏の指導のもと、小学1年生から中学3年生まで、45名の参加者が一所懸命練習を重ねてきたステージには、会場からひととき大きな拍手が寄せられました。

第二部では、日本のゴスペル界を牽引する本場アメリカ出身のラニー・ラッカー氏をはじめ、全国各地のゴスペル指導者7名により構成された「ゴスペルディレクターズ」によるステージが披露されました。ゴスペル指導者たちのパフォーマンス

は圧巻で、来場者はゴスペルの真髄を大いに楽しんでいました。フィナーレでは次年度の文化祭開催県である新潟県へゴスペルフェスティバルが引き継がれ、大盛況のうちに幕を閉じました。

コンパルホール合唱団にとっては、県内外のゴスペルグループと交流を深め、合唱技術を高める良い機会となりました。また、「大分色」を存分に取り入れ、大分県の魅力を発信することで、地域に根ざした文化芸術の創造と振興を図ることができたと感じています。

## ●プログラム

- 第一部 九州から広がる、ゴスペルの輪「いいやん!大分～九州」ステージ
- 第二部 全国で活躍するゴスペルディレクターが一堂に集結「ゴスペルディレクターズステージ」
- フィナーレ オールキャスト「コンパルホール ゴスペルフェスティバル スペシャルメドレー」

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 大分市 大分市教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会 コンパルホール

57

## 日本舞踊の祭典（芸術文化ゾーン事業）

開催日：平成30年11月11日(日)

開催場所：iichiko総合文化センター



出会うの場

祈りの谷

豊かな浦

耕す里

水の森

## ●実施状況

「お招き 新たなる出会い おもてなし」をテーマに、大分県日本舞踊連盟をはじめ、北海道や青森、新潟、兵庫、宮崎など全国から集った踊り手約80人の方々による舞台を約1,100人の観衆のもと開催しました。

長唄や常磐津により華やかな舞台が繰り広げられ、中でも次世代を担う子どもたちの舞台では、県内の小学2～6年生9人が舞台上がり、長唄「羽根の禿」など3曲で踊りを披露しました。子供たちも、練習回数を重ねる中で自信をつけ、益々踊りが好きになり、本番の成功体験で、学校生活も積極的に取り組むようになったとの保護者の声が寄せられました。

さらに、今回は全国障害者芸術・文化祭との一体開催ということで、障がい者の方にもご参加いただきました。出演者である園田元治氏は、脳血管障害による右片まひを発症するまで7年間にわたって日舞を習っていたこともあり、大和楽「序の舞」を見事に披露しました。今回の成果を機に、障がいのある方への普及も進めていきたいと考えています。

また最後の演目では、脚本岩豪友樹子氏（大分市）、振付・演出花柳五三輔氏（兵庫県）による長唄「恋慕 由布の為朝」を県内の舞踊家が出演し披露しました。これまで稽古を重ねてきた出演者の変化に富んだ華麗な舞台に観客から大きな拍手が送られました。

出演者・関係者を含め、多くの方々に日本舞踊のすばらしさを再認識していただけた大会となりました。

## ●プログラム

- ・長唄「江戸風流」（公社）日本舞踊協会福岡県支部（福岡県）
- ・長唄「都鳥」西川流鯉延会（北海道）
- ・長唄「四季の山姥」（公社）日本舞踊協会秋田県支部（秋田県）
- ・常磐津「栗餅」（公社）日本舞踊協会青森県支部（青森県）
- ・長唄「座敷舞 二人道成寺」結ひの会（熊本県）
- ・長唄「時雨西行」兵庫県舞踊文化協会（兵庫県）
- ・長唄「紅葉吹き寄せ」芽桜流宮崎県本部（宮崎県）
- ・次世代を担う子どもたち  
長唄「羽根の禿」「胡蝶」「新鹿の子」  
大分県日本舞踊連盟（大分県）
- ・大和楽「序の舞」園田 元治（大分県）
- ・長唄「助六」（公社）日本舞踊協会新潟県支部（新潟県）
- ・長唄「吉原雀」（聖涼会）中野区日本舞踊連盟（東京都）
- ・常磐津「松島」（公社）日本舞踊協会宮城県支部（宮城県）
- ・長唄「二人狸々」  
（公社）日本舞踊協会神奈川県支部（神奈川県）
- ・長唄「俄獅子」五條流明鈴会（北海道）
- ・常磐津「敵島」錦川流錦川会（広島県）
- ・長唄「恋慕 由布の為朝」大分県日本舞踊連盟（大分県）

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 おおいた2018日本舞踊の祭典実行委員会

58

# 第5回大分武漢友好美術展

— おおいた文化の祭典 —

開催日：平成30年11月14日(水)～24日(土)

開催場所：大分県立美術館



## ●実施状況

大分市と友好都市の中国・武漢市は、美術を通じた交流を続けており、今回、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭「おおいた文化の祭典」事業として5回目の『大分武漢友好美術展』を開催しました。687点の応募があり、141点を入選作品として大分県立美術館に展示し、期間中に約3千人の来場者がありました。また、県内各地の文化遺産で、中国芸術家と地域住民との文化交流会も開催するなど、県内外の美術家が、武漢の芸術家の人たちと手を取り合い、友好を深めました。

さらに、県立美術館で『大分武漢子ども夢交流展』を同時開催し、中国湖北省と県内の小中学校等の児童・生徒から1,004点の応募があり、207点を入選作品として展示しました。子どもたちが、言葉の壁の無い絵画で世界の人々との交流と絆を深め、文化の大切さを学びました。大分市と武漢市との繋がりだけでなく、大人から子どもへ、さらにその子どもへと次世代にバトンタッチをしていく展覧会となりました。

今大会を通じて、大分県の文化を海外に発信し、大分の人々の優しさや文化の深さを海外の人にも伝えることができました。

## ●プログラム

- ・11月14日(水)～24日(土) 展覧会 (大分県立美術館1階展示室等)
- ・11月14日(水) 開会式 (大分県立美術館)  
中国芸術家の書と水墨画の公開制作 (大分市浄慶寺)
- ・11月17日(土) 中国芸術家と沈露露(日本美術院研究員)による書と水墨画公開制作と展示 (竹田市深田光霊記念 詩聲館)
- ・11月18日(日) 大分武漢友好美術展・子ども夢交流展 合同表彰式 (大分県立美術館)
- ・11月末～ 巡回展を開催

## ●表彰

- ・大分県知事賞 一般の部・子どもの部 (各1名)
- ・第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞 一般の部・子どもの部 (各1名)
- ・大分市長賞 一般の部・子どもの部 (各1名)
- ・大分県芸術文化振興会議事長賞 一般の部・子どもの部 (各1名) など

## ●主催者

文化庁 厚生労働省 大分県 大分県教育委員会 第33回国民文化祭大分県実行委員会、第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会 NPO法人遊鳳国際文化交流協会